

2018 年度入学時アンケートの結果（報告）

IR センター／FD 委員会

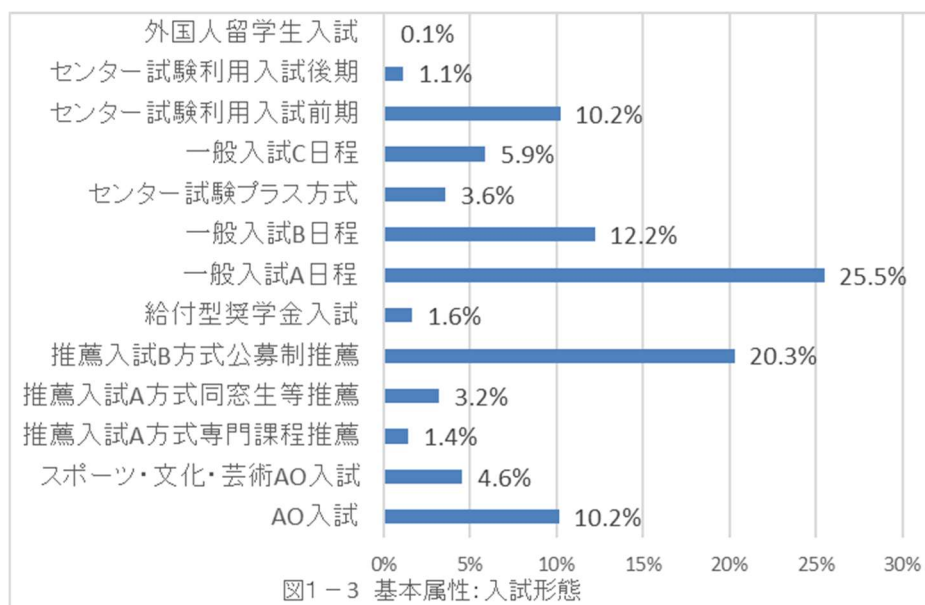
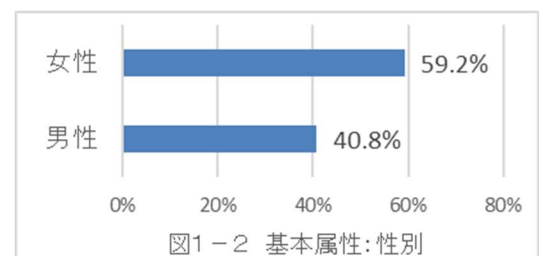
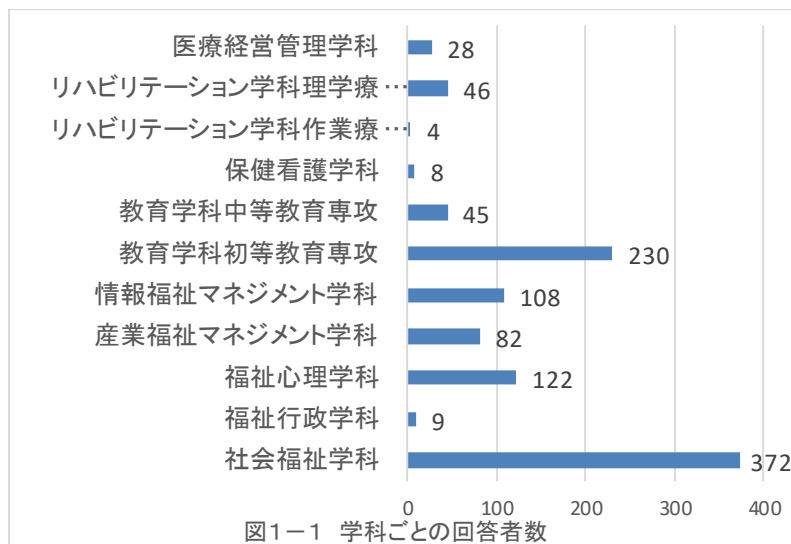
I. アンケートの概要

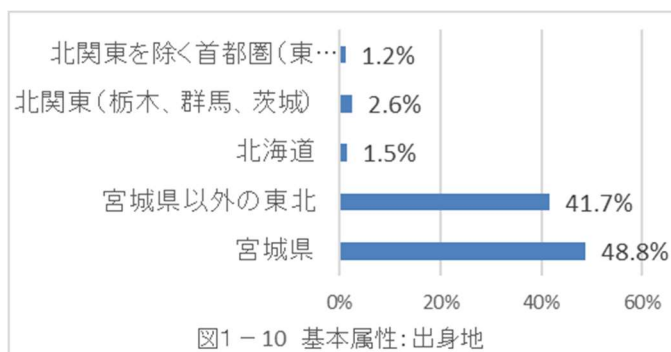
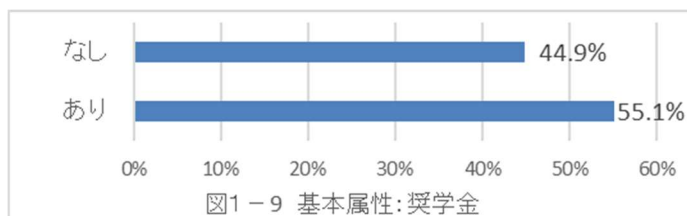
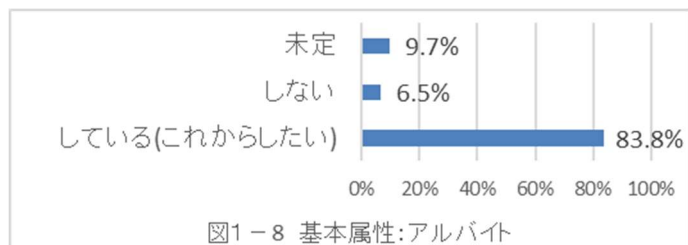
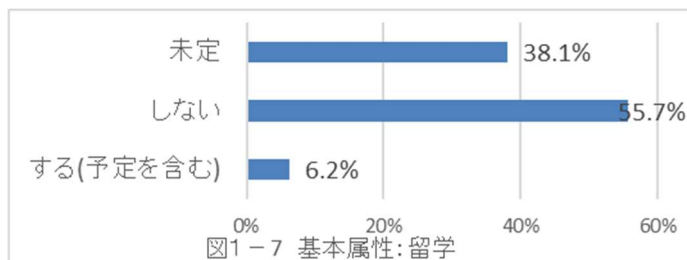
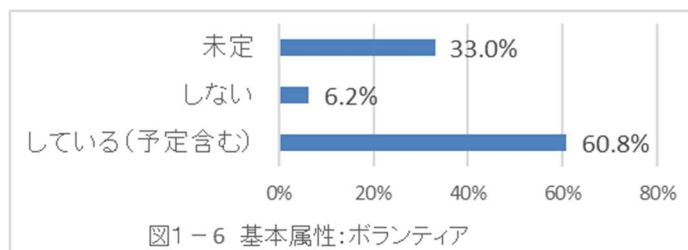
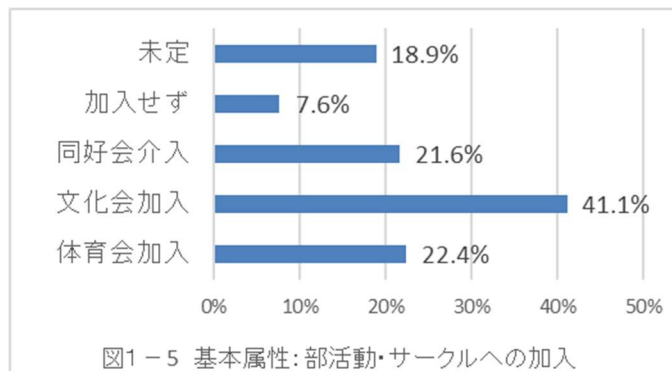
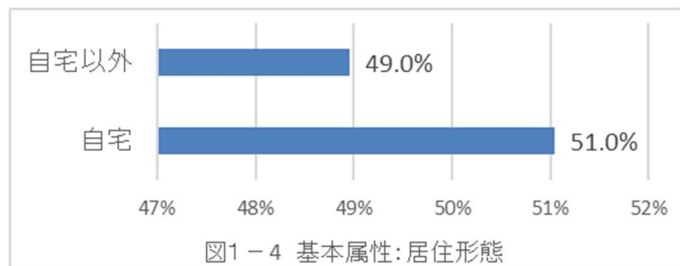
2018 年 4 月から 5 月にかけて 1 年生を対象にユニパのアンケート機能を用いて実施した。アンケートは、回答者の属性、入学に至るまでの項目(HP からの情報収集、オープンキャンパスへの参加、本学の入学目的、本学の志望順位、併願先の大学、入学前レポート課題の難易度等)、入学後の大学生活に関する項目(大学満足度、現在の学生生活の不安、学科ポリシーの評価等)により構成されている。1,054 名の回答が得られた(回答率 69.7%)。

II. 全体の傾向

1. 基本属性

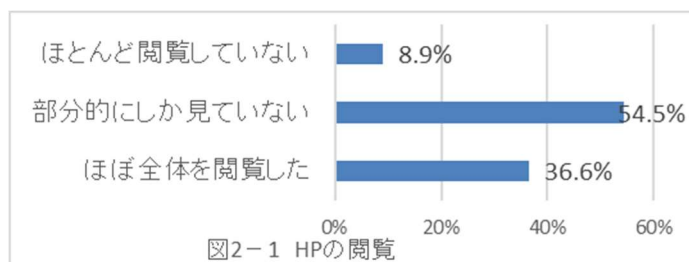
回答者の学科、性別、入試形態、居住形態、部活動・サークルへの参加、ボランティア意向、留学意向、アルバイト意向、奨学金の有無、出身地について、図 1-1 から図 1-10 に示す。なお、「学科」のみ回答者数を示し、他は回答者中の割合を示している。

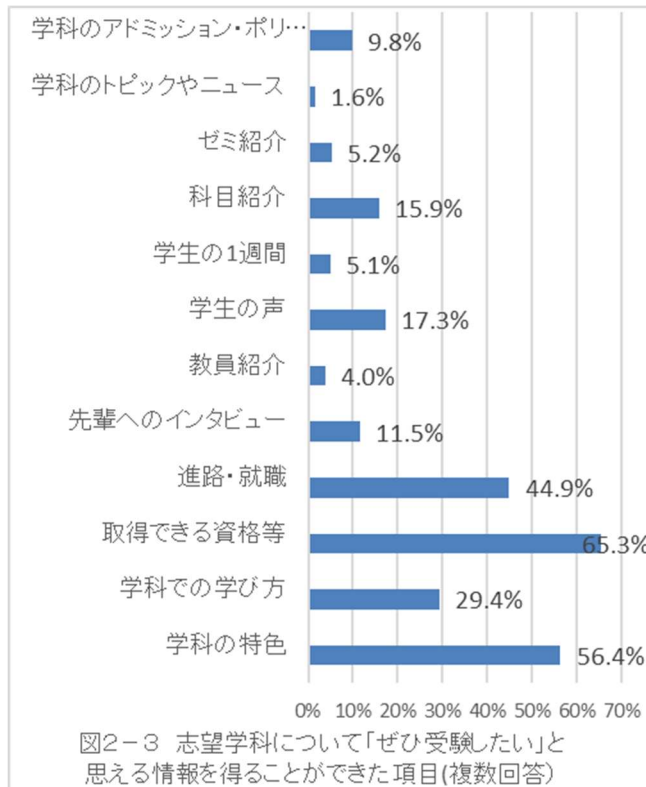
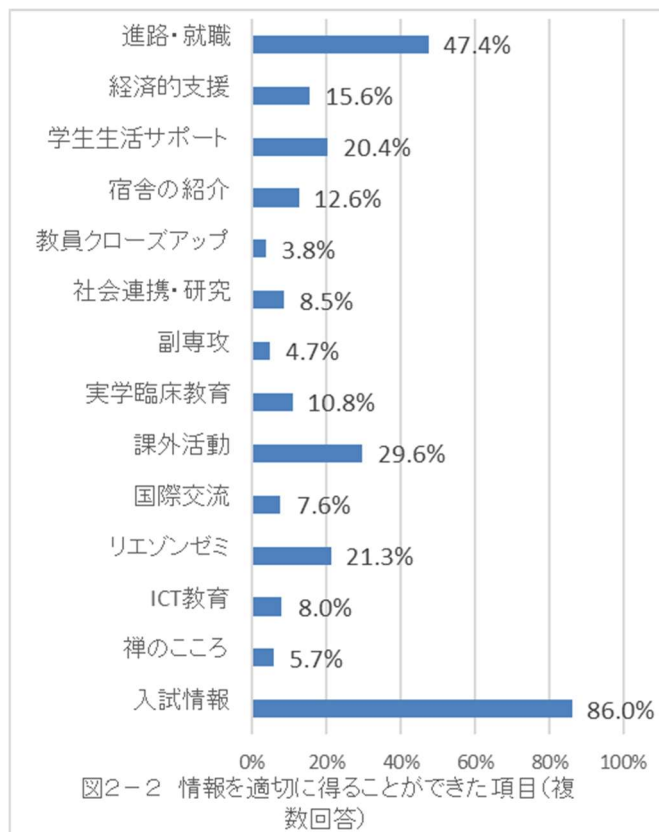




2. 入学に至るまで: 大学 HP について

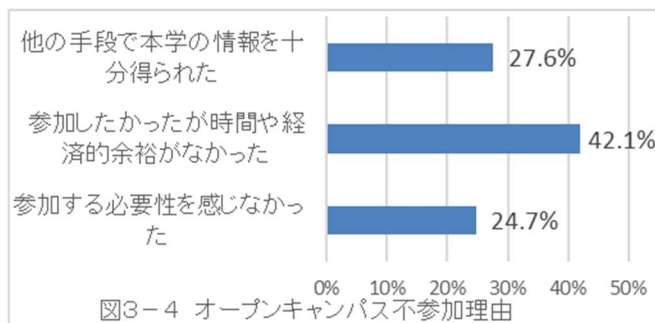
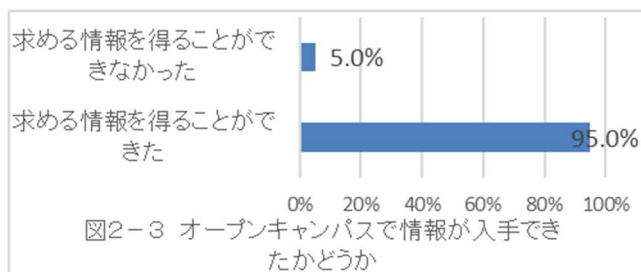
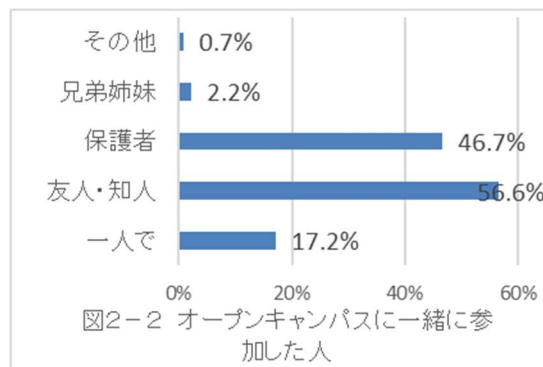
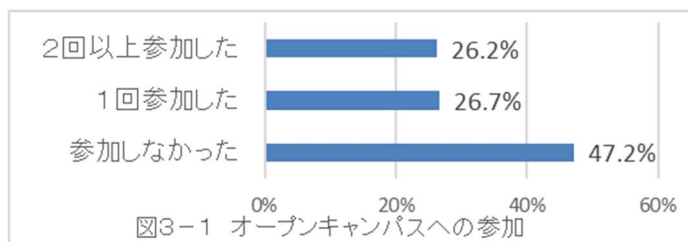
入学前の HP 閲覧について図 2-1 に示す。閲覧した者を対象に、HP からの情報の入手について「適切に得ることができた情報」について図 2-2、「受験したいと思えた情報」について図 2-3 に示す。





3. 入学に至るまで：オープンキャンパス

オープンキャンパスへの参加について図3-1に示す。参加した者を対象に、同伴参加者について図3-2、情報入手について図3-3に示す。不参加者対象に、不参加理由を図3-4に示す。



4. 入学に至るまで：入学目的

本学への入学目的を図4-1に示す。この項目は最も当てはまるものを1つ選ぶ形式で回答を求めている。
2017年度の調査結果と同様に、「将来やりたい仕事やなりたい職業に就くこと」が最も多く、次いで「興味・関心のあることを学ぶこと」であった。

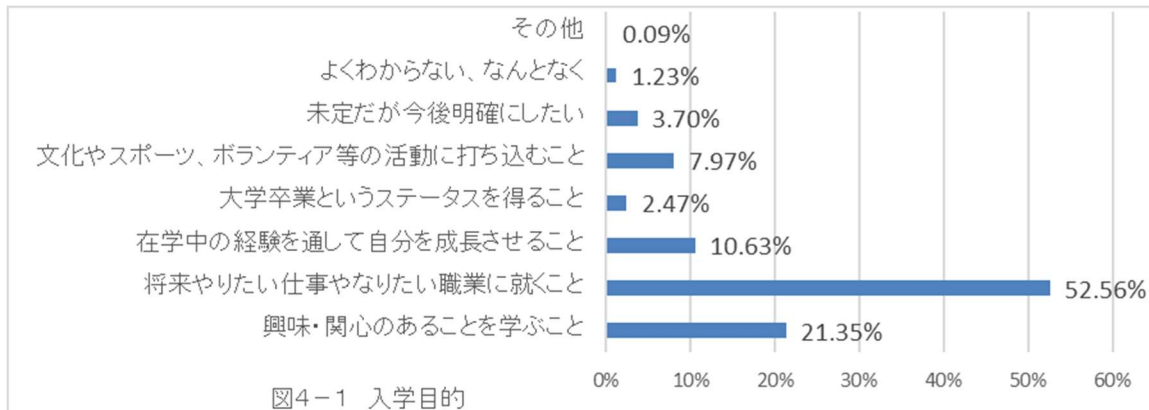


図4-1 入学目的

5. 入学に至るまで：志望順位

本学の私立大学の中での志望順位を図5-1、本学の中での入学した学科の志望順位を図5-2に示す。
共に第一志望が最も多かった。

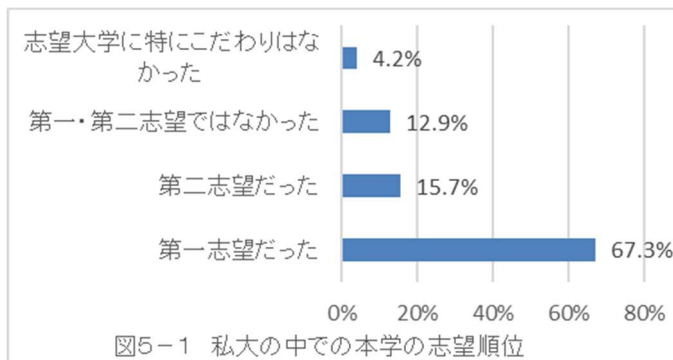


図5-1 私大の中での本学の志望順位

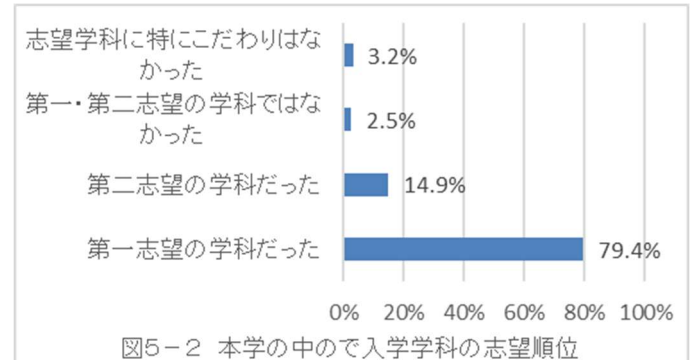


図5-2 本学の中での入学学科の志望順位

6. 入学に至るまで：給付型奨学金入試

給付型奨学金入試の受験の有無を図6-1に、受験していない者の受験しなかった理由を図6-2に示す。

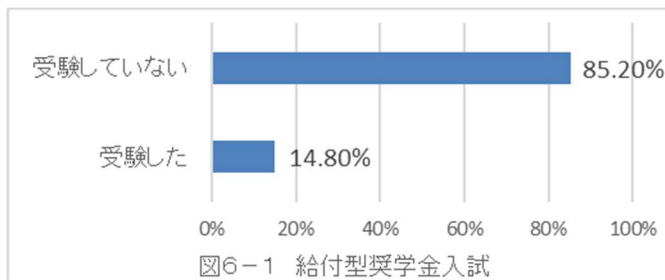


図6-1 給付型奨学金入試

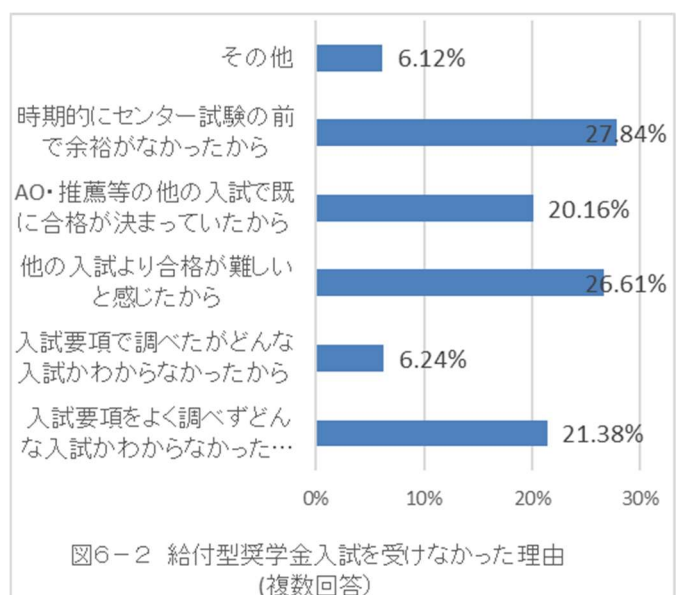
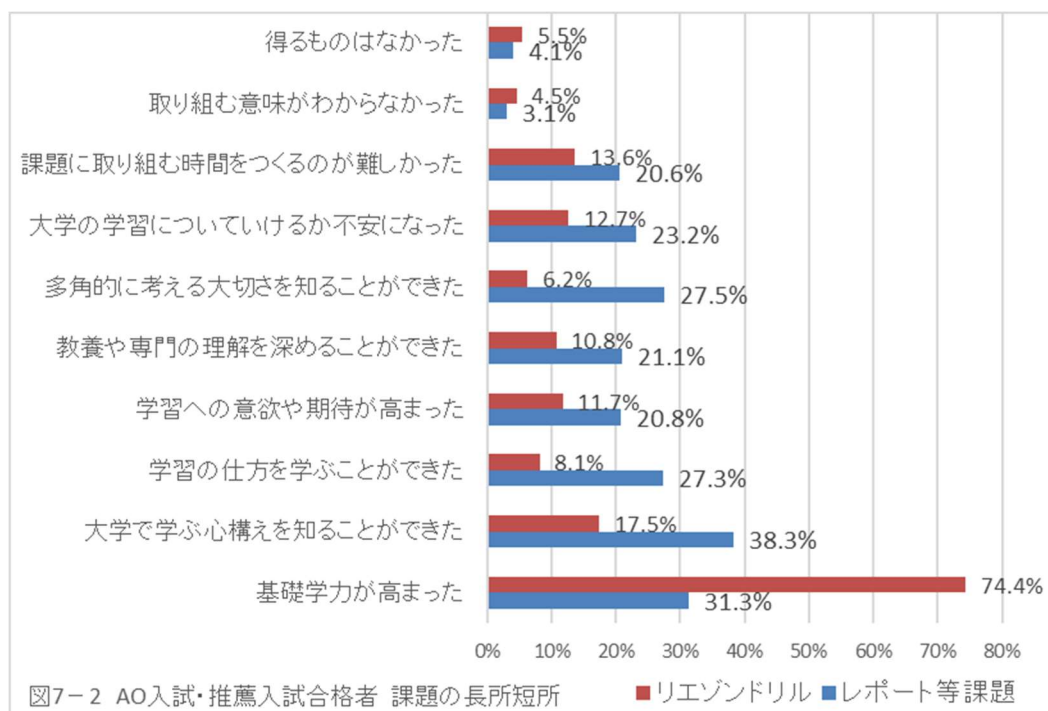
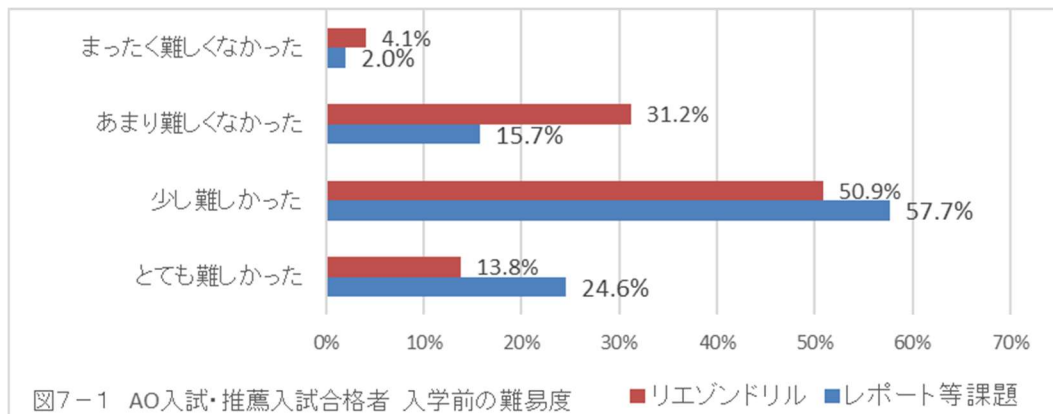


図6-2 給付型奨学金入試を受けなかった理由
(複数回答)

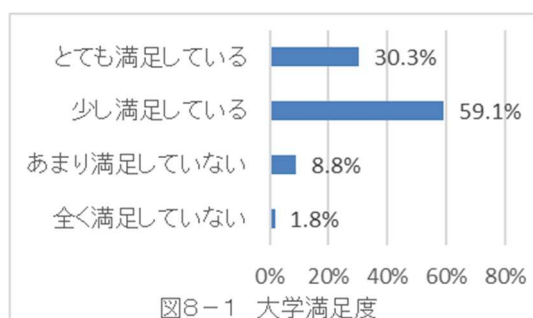
7. 入学に至るまで：AO入試と推薦入試の合格者における入学前教育

AO入試と推薦入試の合格者に対する入学前教育、「レポート等課題」と「リエゾンドリル」の難しさについて図7-1に示す。また、それぞれに課題の長所と短所について図7-2に示す。レポート等課題のほうがリエゾンドリルより難しさを高く評価されていた。またリエゾンドリルでは基礎学力の高まりが高く評価され、レポート等課題では入学後に関わる事柄(学習の仕方、考え方、意欲など)についてリエゾンドリルよりも高く評価されていた。



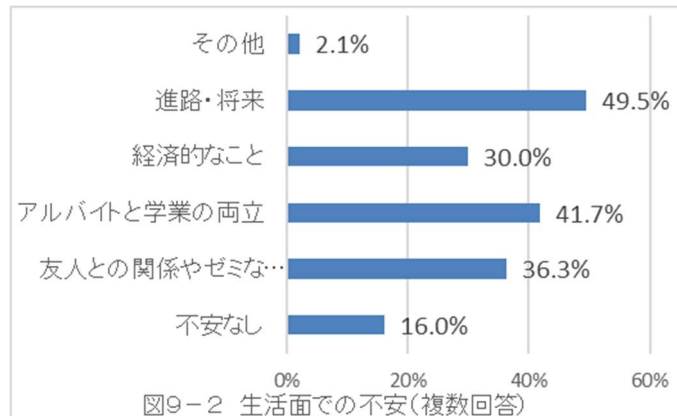
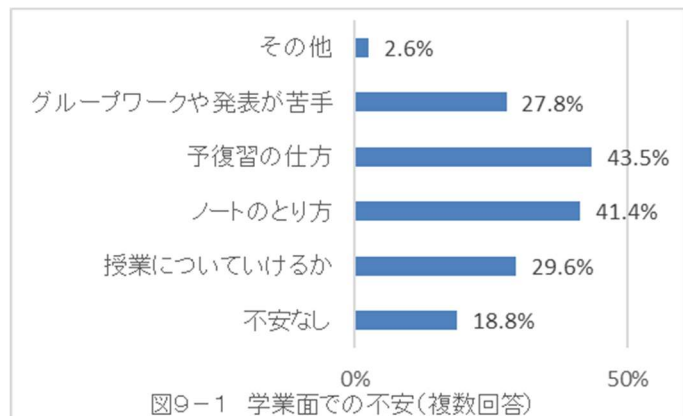
8. 入学後：大学生活への満足感

入学後の大学生活への満足度を図8-1に示す。概ね満足している傾向がうかがえるが、1割程度は満足感を持っていない状態であることが示された。



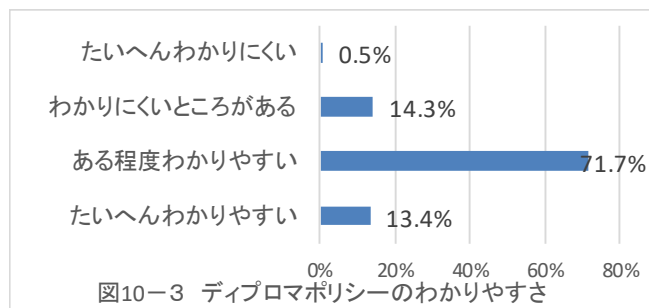
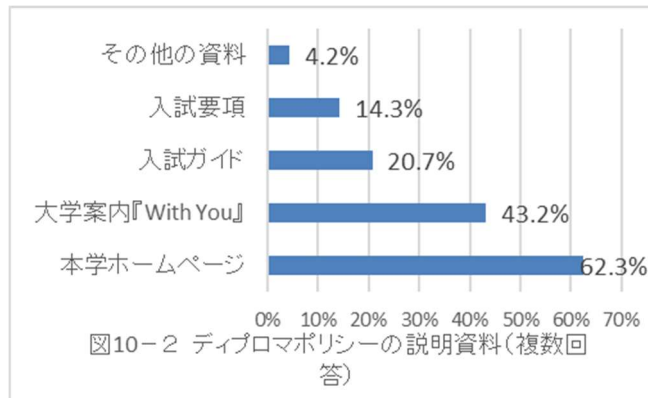
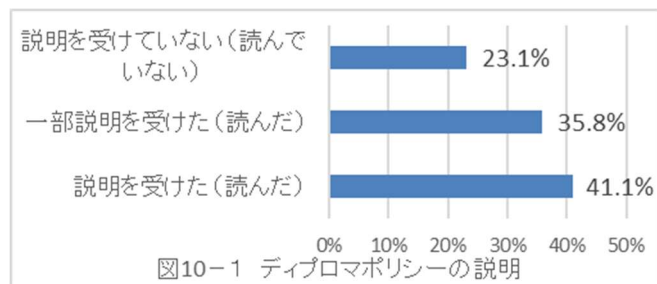
9. 入学後：学業面と生活面での不安

入学後に感じている学業面での不安と生活面での不安を図9-1と図9-2に示す。学習面では「予復習の仕方」「ノートを取り方」、生活面では「進路・将来のこと」「アルバイトと学業の両立」について4割を超える者が不安を示した。



10. ディプロマ・ポリシーの説明について

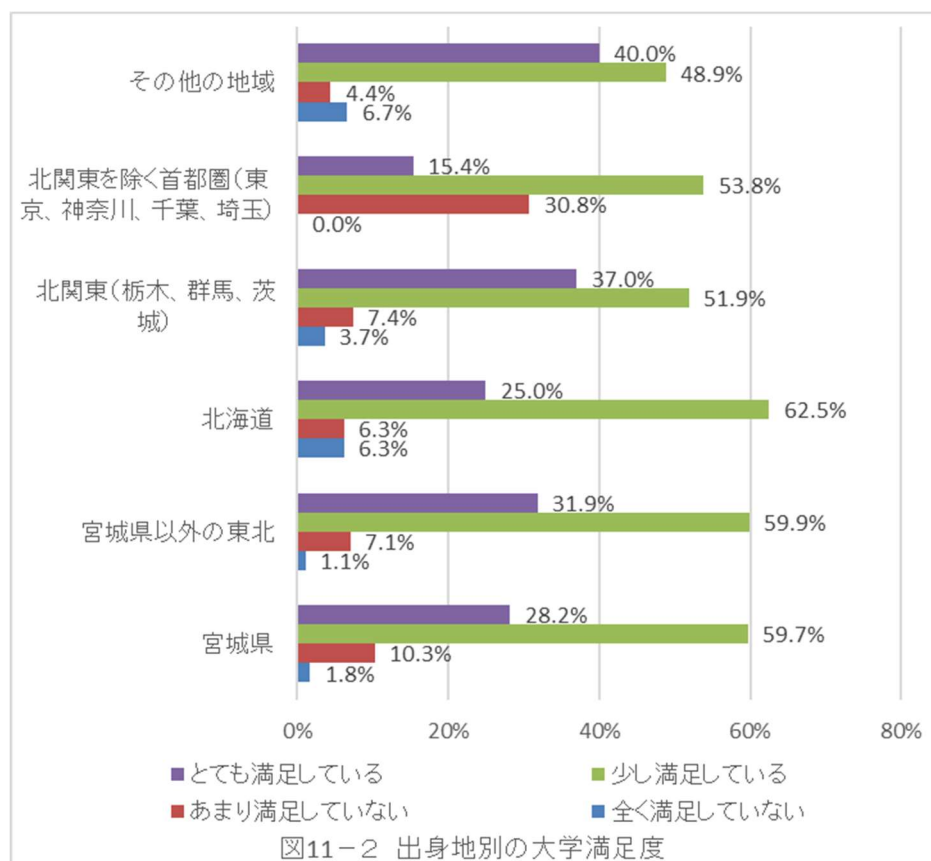
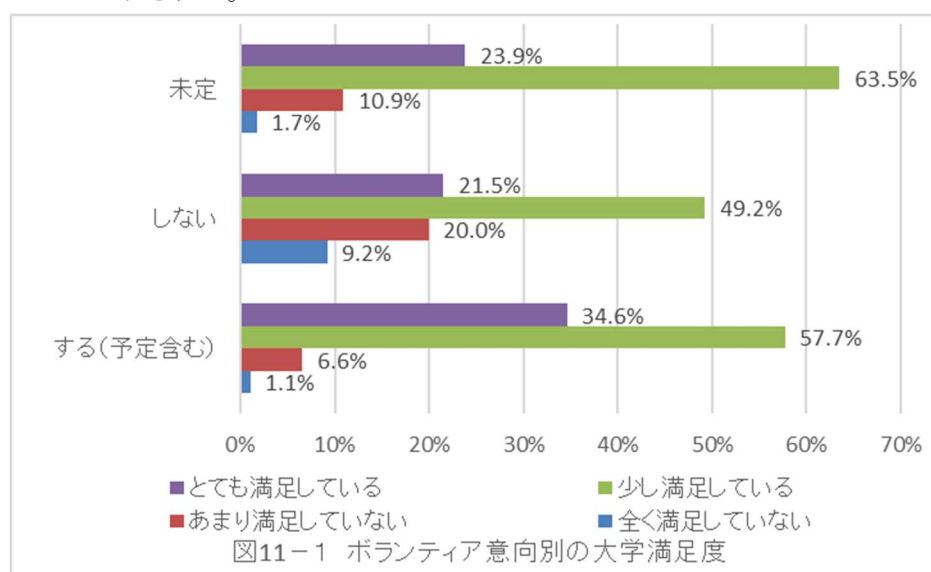
学科のディプロマ・ポリシーHP等で読んだり所属学科の教員から説明を受けたりしているかどうかについて図10-1に示した。説明を読んだ・受けた者がディプロマ・ポリシーの説明を読んだ・受けた資料について図10-2に、ディプロマ・ポリシーの分かりやすさの評価について図10-3に示した。説明を受けていないもしくは読んでいない者が2割程度いるという結果は2017年度と同様であった。また、確認資料はHPが最も多く、ある程度分かりやすいと評価されていることが明らかとなった。

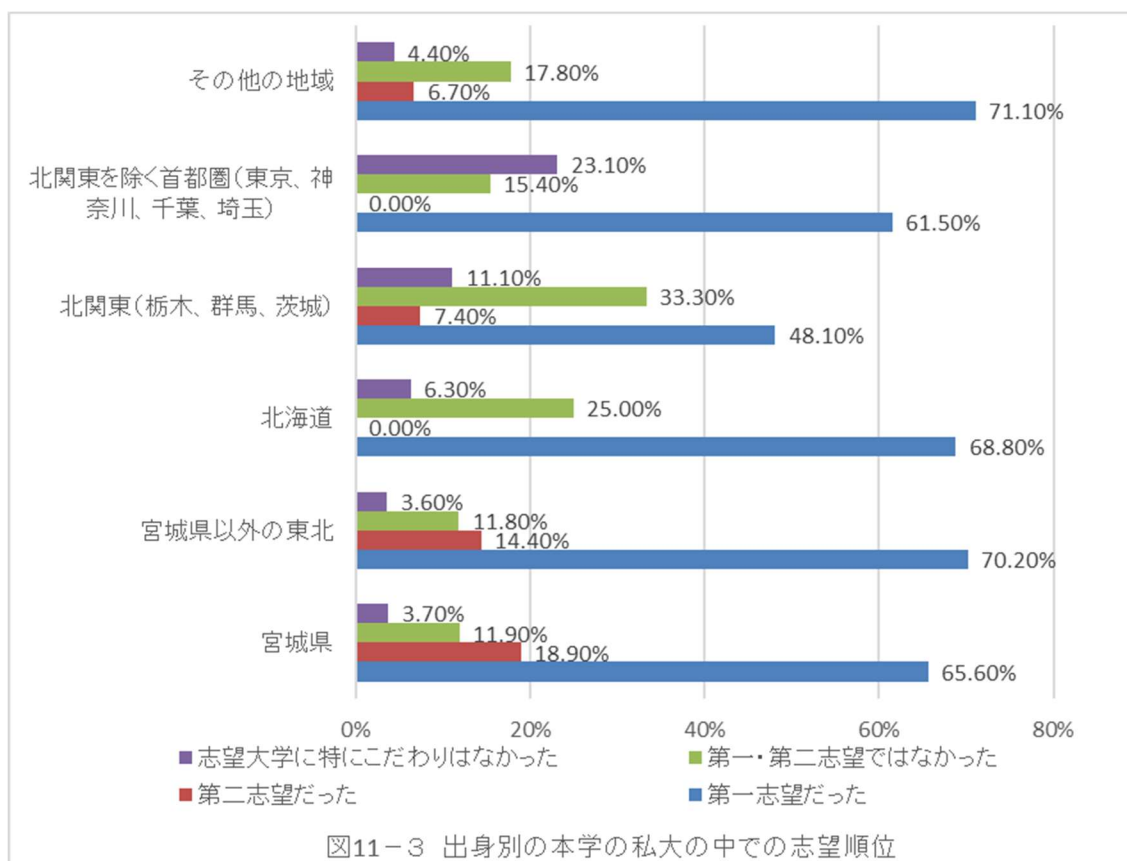


Ⅲ. 大学生生活の満足度と関連する要因の検討

1) 基本的属性の関連

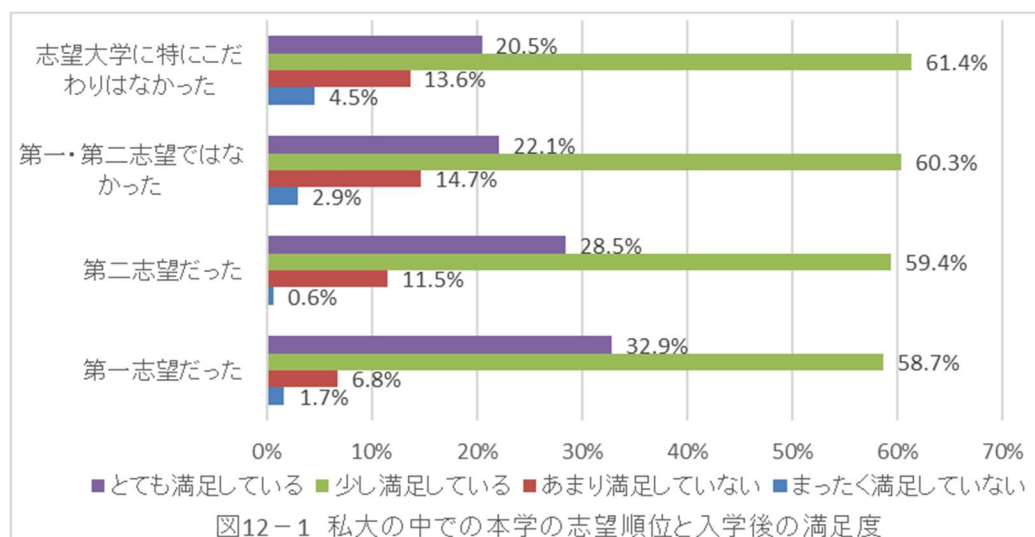
回答者の基本的属性(性別、居住形態、部活動・サークルへの参加、ボランティア意向、留学意向、アルバイト意向、奨学金の有無、出身地)と大学生活への満足度の関連について χ^2 検定を用いて検討した。統計的に有意な連関が示された結果について図11-1から図11-2にまとめた。ボランティア意向では、ボランティアを「する」と答えた者が「未定、しない」と答えた者よりも大学への満足感が高く示し、「しない」と答えた者が不満足を高く示すことが示された。この結果は2017年度と同様であった。次いで出身地との関連では、特に「北関東を除く首都圏」の者が「あまり満足していない」と回答することが多いことが示された。このことと関連し、追加分析として出身地と私大の中での本学の志望順位の関係も χ^2 検定を用いて検討したところ統計的に有意な連関が示され、「北関東を除く首都圏」の者に「志望大学に特にこだわりがなかった」という回答が多いことが示された。

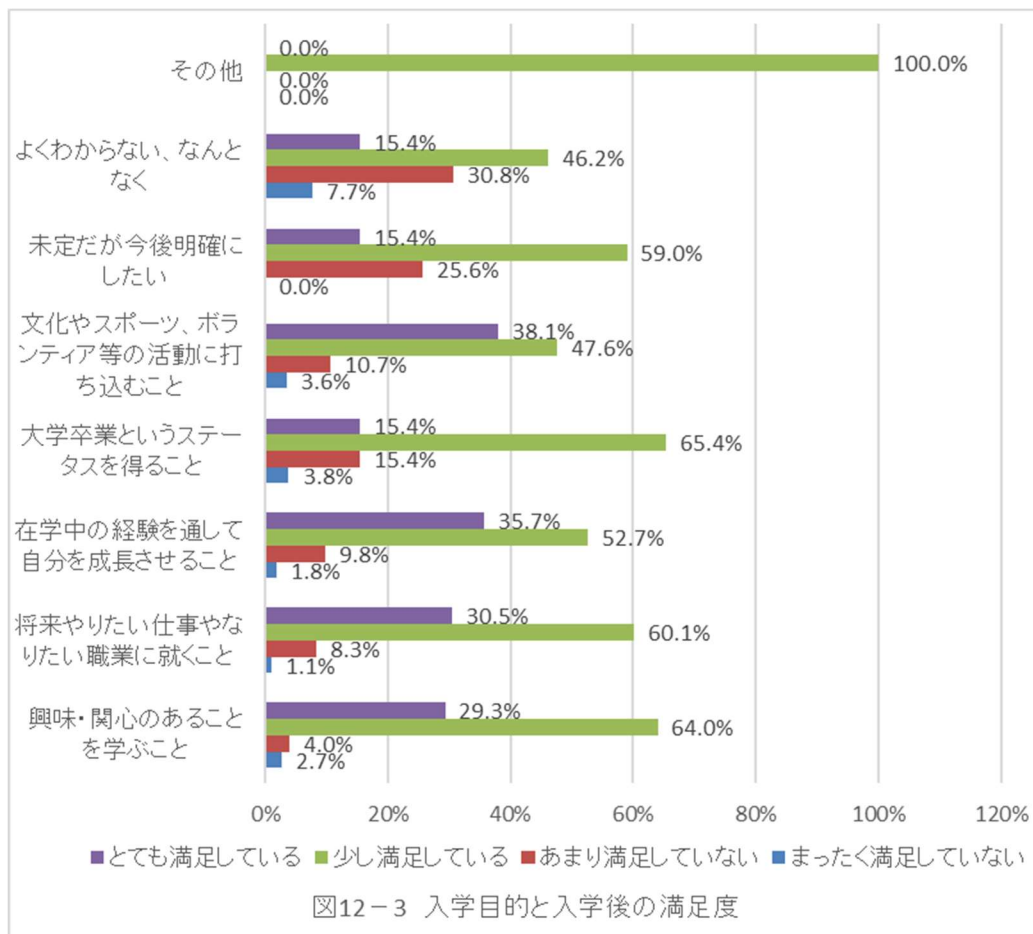
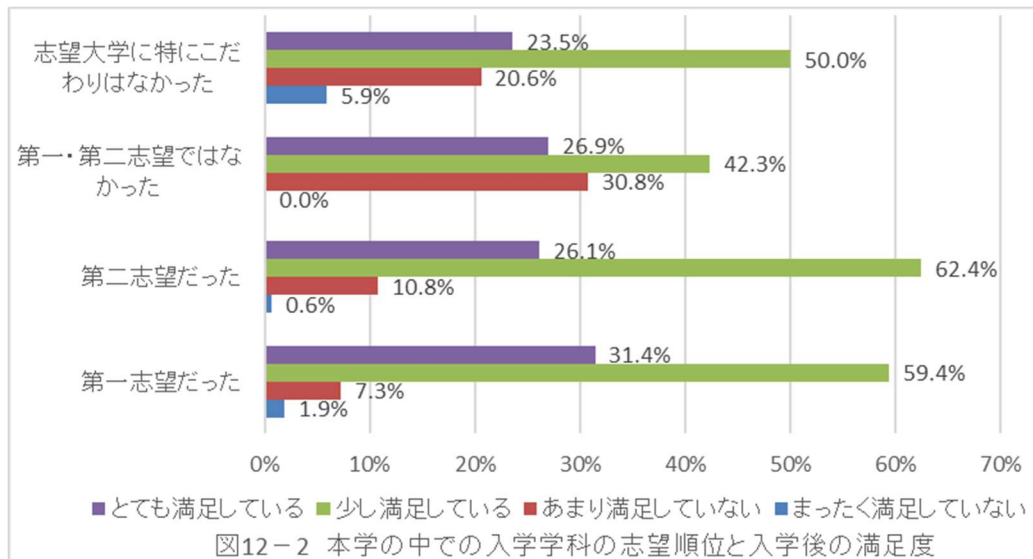




2) 志望順位、入学目的の関連

入学後の満足度と「私大の中での本学の志望順位」「本学の中での入学学科の志望順位」「入学目的」の3項目との関連を χ^2 検定を用いて検討したところ、すべて統計的に有意な連関が示された。結果を図12-1から図12-3にまとめた。まずどの入試形態でも「少し満足している」という回答が最も多いことは共通だが、本学の志望順位が高い者ほど「満足している」との回答が多いことが示された(図12-1)。次に入学学科の志望順位では、「第一、第二志望ではなかった」「こだわりがなかった」者に「あまり満足していない」という回答が多いことが示された(図12-2)。入学目的では、「よくわからない、なんとなく」と答えた者に「あまり満足していない、満足していない」という回答が多いことと、「未定だが今後明確にしたい」と答えた者にも同様に「あまり満足していない」という回答が多いことが示された(図12-3)。





3) その他

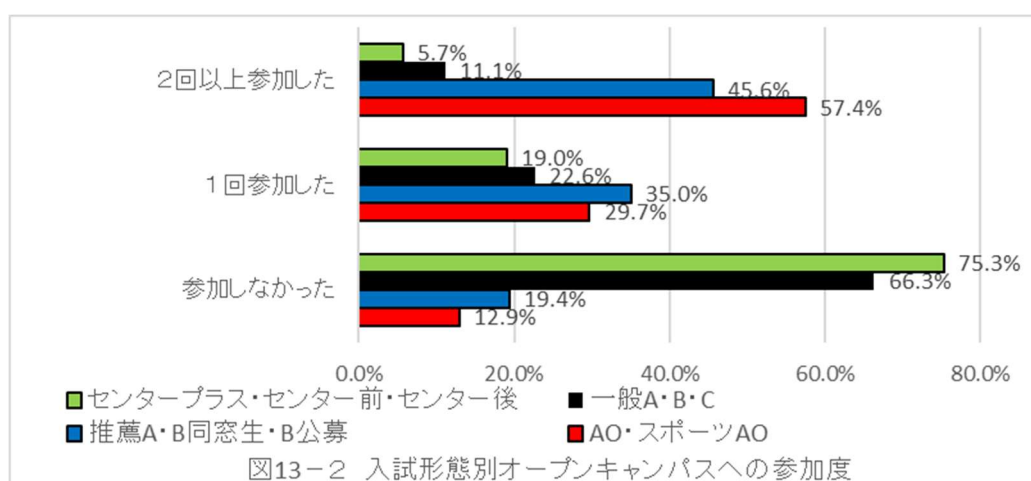
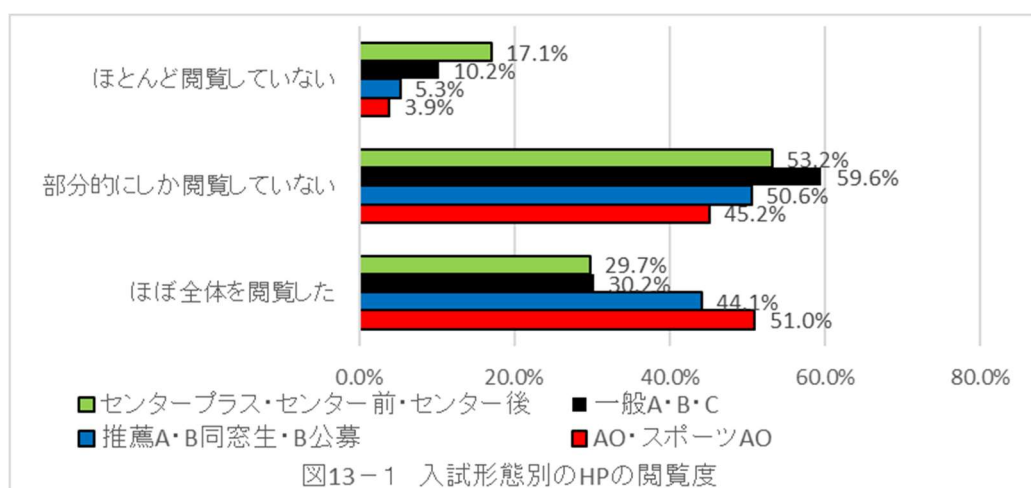
入試形態(分類は後述)、AO 入試・推薦入試の合格者における入学前課題の難易度(レポート課題、リエゾンドリルとも)と入学後の満足感との有意な関連は認められなかった。

IV. 入試形態に着目した分析

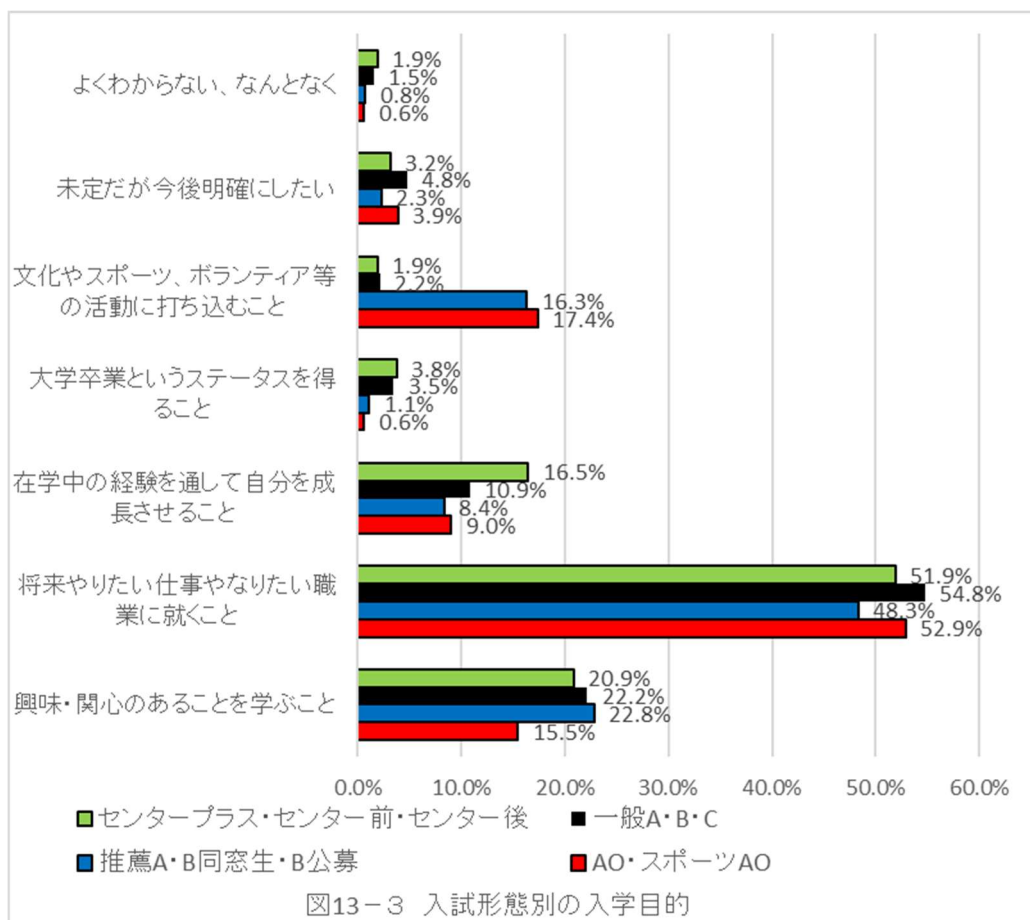
1) 入学前(HP 閲覧、オープンキャンパス参加)・入学後(学習・生活不安)との関連

入試形態を「AO 入試、スポーツ・文化 AO 入試」(以下、AO 入試)、「推薦入試 A 方式専門課程推薦、推薦入試 A 方式同窓生等推薦、推薦入試 B 方式公募制推薦」(以下、推薦入試)、「一般入試 A 日程、一般入試 B 日程、一般入試 C 日程」(以下、一般入試)、「センター試験プラス方式、センター試験利用入試前期、センター試験利用入試後期」(以下、センター入試)に分類した。この分類を用いた入試形態と入学前(HP 閲覧、オープンキャンパス、入学目的、志望順位)、入学後(大学への満足感、学習面・生活面の不安)との関連を χ^2 検定を用いて検討した。統計的に有意な連関が示された結果についてのみ、図 13-1 から図 13-6 にまとめた。なお他の入試形態(給付型奨学金入試、外国人留学生入試など)については、回答者数が少なく集計にとっては個人が特定される恐れがあるため、検討に含めなかった。

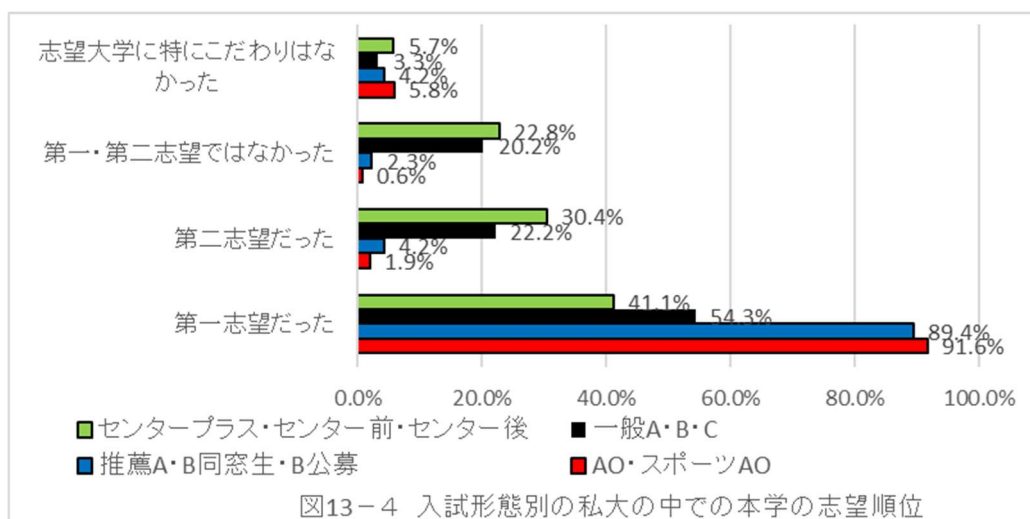
まず「HP 閲覧」について、AO 入試・推薦入試の合格者のほうが一般入試・センター入試の合格者よりも HP を閲覧していることが示された(図 13-1)。そして、「オープンキャンパスの参加」についても、AO 入試・推薦入試の合格者のほうが一般入試・センター入試の合格者よりもオープンキャンパスに多く参加しており、一般入試・センター入試の合格者は 7 割程度が参加していないことが明らかとなった(図 13-2)。



続いて「入学目的」との関連では、「興味・関心、将来の仕事・職業」といった理由では特に違いは見られないが、AO 入試・推薦入試の合格者のほうが「文化・スポーツ・ボランティア活動」を挙げる者が多く、センター入試では「成長」を挙げる者が多いことが示された(図 13-3)。



次に「私大の中での本学の志望順位」について、AO 入試・推薦入試の合格者のほうが第一志望であった者が多く、一般入試・センター入試の合格者のほうが第二志望以下と回答する者が多いことが示された(図13-4)。「入学学科の本学の中での志望順位」では、どの入試形態でも第一志望が最も多いことに違いはないが、第二志望に一般入試・センター入試が多いことが示された(図13-5)。



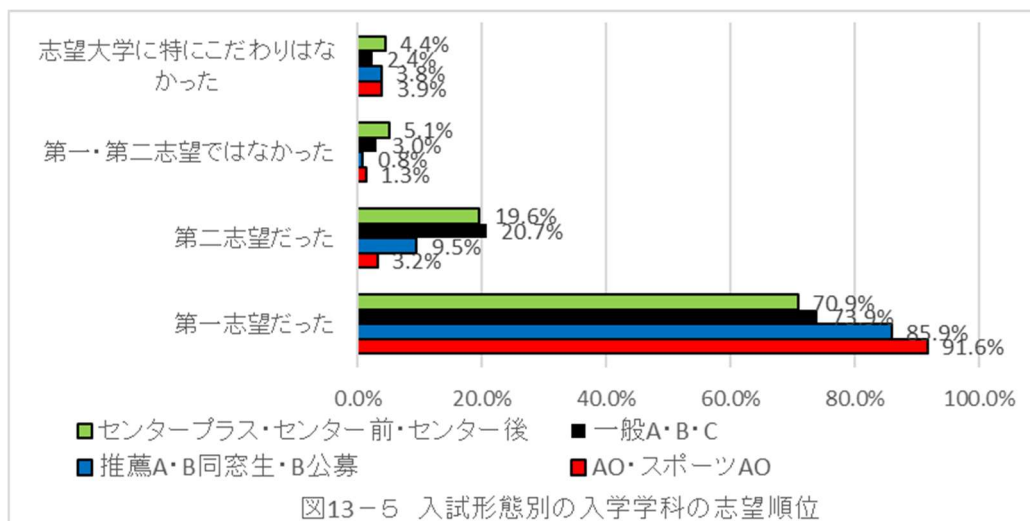


図13-5 入試形態別の入学学科の志望順位

最後に「入学後の学習面、生活面での不安」について、AO 入試・推薦入試の合格者のほうが学習面での「授業の難しさ」をあげる者が多く、一般入試・センター入試の合格者のほうが「グループワーク、発表」をあげるものが多かった。また、生活面での不安では、特に AO 入試・推薦入試の合格者のほうがアルバイトと学業の両立」をあげる者が多いことが示された(図 13-6)。

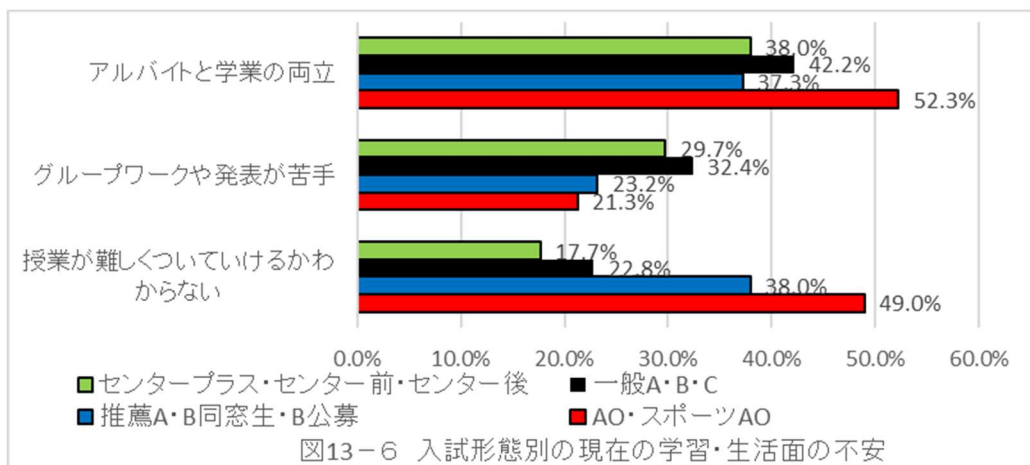
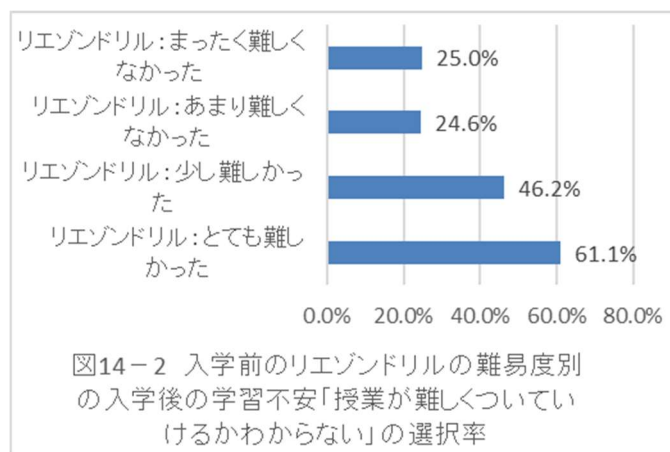
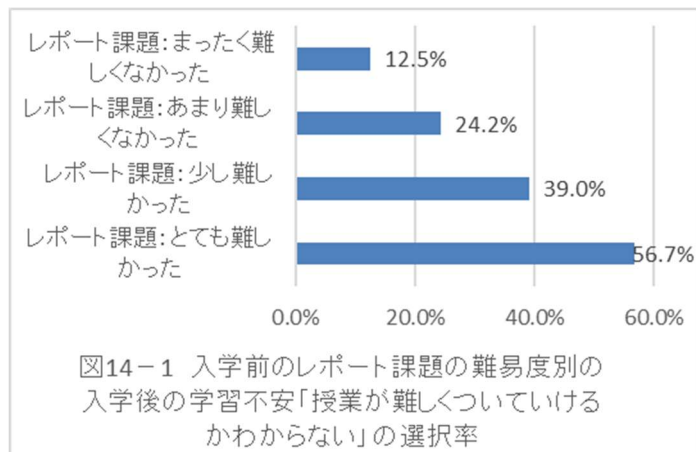


図13-6 入試形態別の現在の学習・生活面の不安

なお、センター入試の区分を除き、「AO 入試、推薦入試、一般入試」の3区分で集計を行った場合でも、上記の6項目において同様の有意な関連が示される結果となった。

2) AO 入試・推薦入試合格者の入学前課題の難易度と入学後の学習不安

AO 入試・推薦入試合格者に限定して、入学前課題であるレポート課題とリエゾンドリルに感じた難易度と入学後の学習不安について χ^2 検定を用いて検討したところ、学習不安「授業がむずかしくてついていけないかわからない」1項目のみ有意な連関が示された。レポート課題の難易度との関連を図 14-1、リエゾンドリルの難易度との関連を図 14-2 に示す。レポート課題とリエゾンドリルとも、難易度を高く感じた者が入学後の授業に対しても不安を感じていることが明らかとなった。

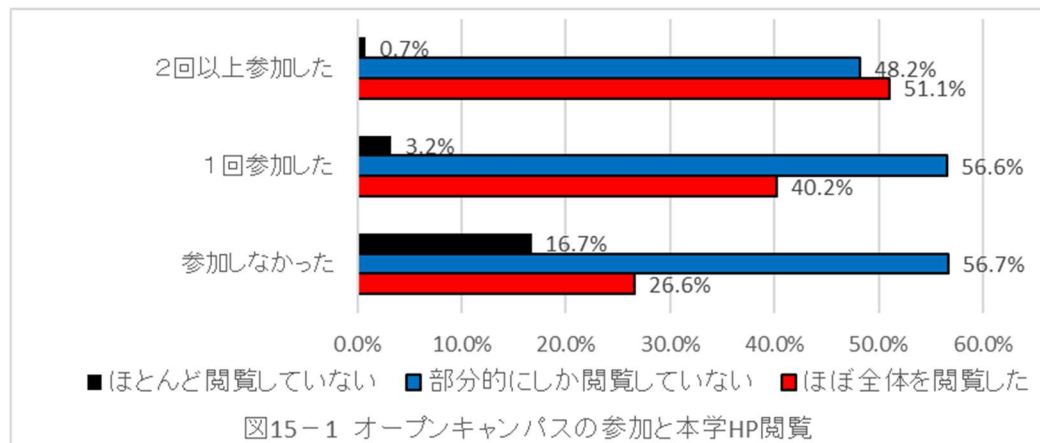


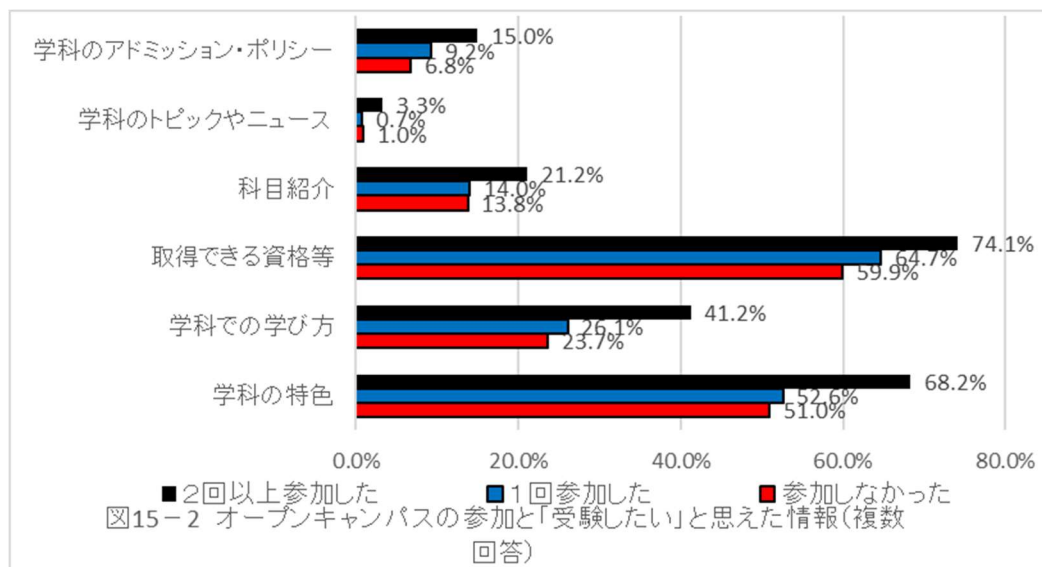
V. オープンキャンパスの参加、本学 HP の閲覧に着目した分析

1) オープンキャンパスの参加と HP 閲覧との関連

オープンキャンパスの参加と本学 HP 閲覧、HP から得られた「受験したいと思えた」情報(12 種から複数選択)の 3 項目について χ^2 検定を用いて検討したところ、統計的に有意な連関が示された。結果を図 15-1 と図 15-2 にまとめた。

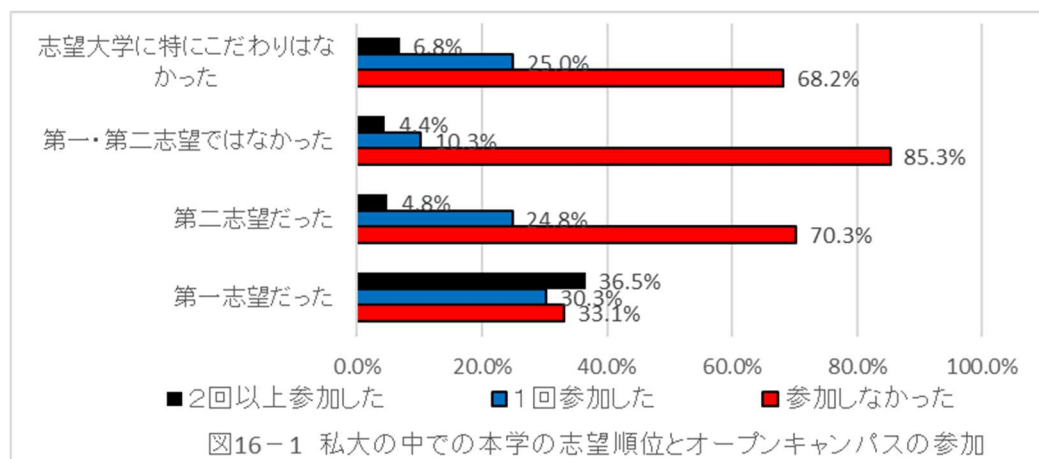
本学 HP の閲覧との関連では、参加回数が多いほど全体を閲覧していることが示され、逆に参加しなかった者は 1 回でも参加した者よりも「閲覧していない」ことが明らかとなった(図 15-1)。次に「受験したいと思えた情報」では 6 種の情報との関連が示された(図 15-2)。いずれも、2 回以上参加した者が「受験したいと思えた」情報だと回答しており、参加しなかった者が 1 回でも参加した者より「その情報で受験したくなった」と回答した情報はなかった。

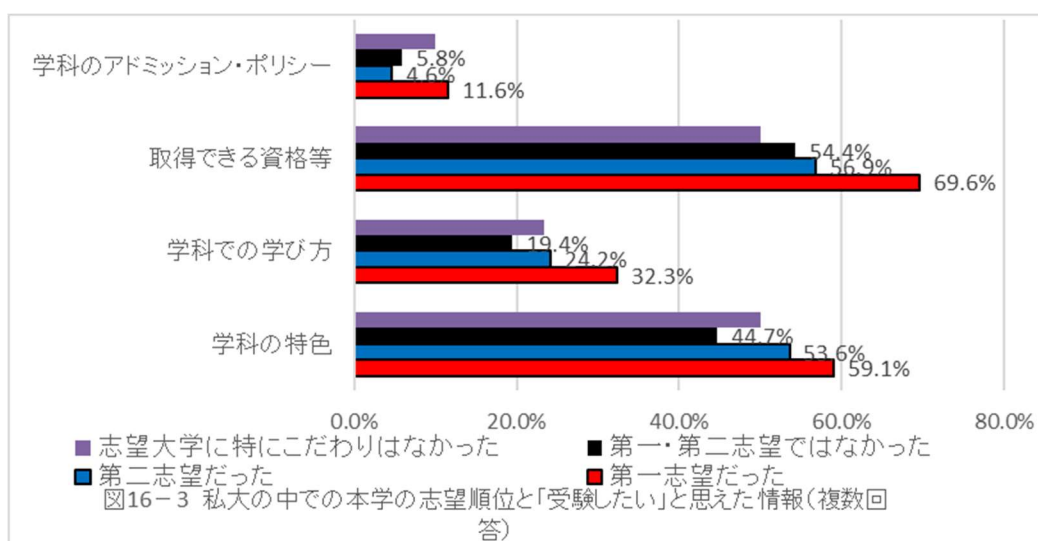
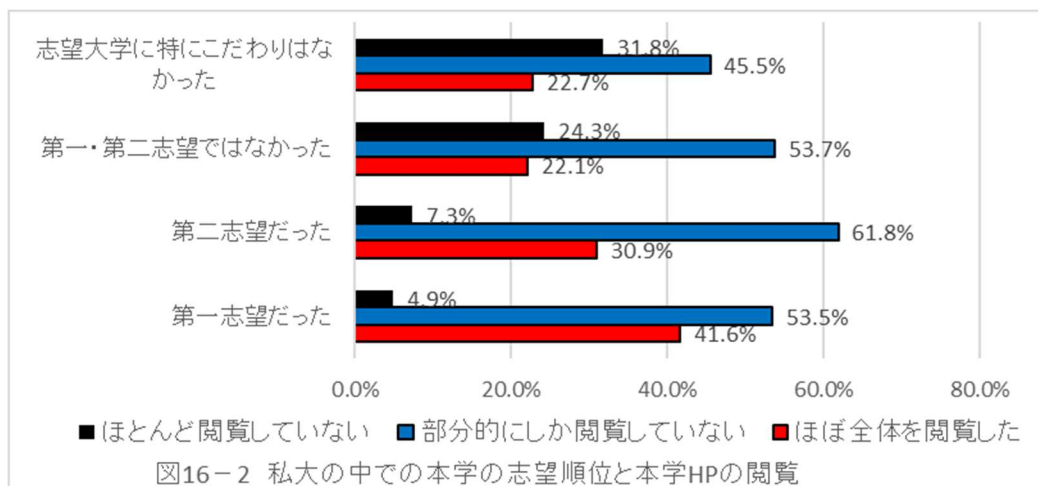




2) 本学の志望順位との関連

本学の志望順位とオープンキャンパスの参加、本学 HP 閲覧、HP から得られた「受験したいと思えた」情報(12 種から複数選択)の 3 項目について χ^2 検定を用いて検討したところ、すべて統計的に有意な関連が示された。結果を図 16-1 から図 16-3 にまとめた。まずオープンキャンパスとの関連では、本学が第一志望の者が最も参加が多いことが示された。その反面第二志望以下では類似した傾向が見られ、7～8 割の者が「参加しなかった」ことが示され、志望順位が第二志望以下の場合、「こだわりがない」者よりも参加しないことが明らかとなった(図 16-1)。次に本学 HP の閲覧との関連では、「第一志望」と「第二志望」が同様の傾向を示し、「閲覧していない」という物は 1 割にも満たないが、「第二志望以下、こだわりがなかった」者ではおよそ 3 割が「閲覧していない」ことが示された(図 16-2)。最後に HP から得られた「受験したいと思えた情報」では 4 種の情報について関連が認められ、それぞれ「第一志望」の者がそれら情報から影響を受けたことが示された(図 16-3)。ただし、特に「第二志望以下、こだわりがなかった」者が「第一志望、第二志望」の者よりも多く「その情報で受験しなくなった」と回答した情報はなかった。

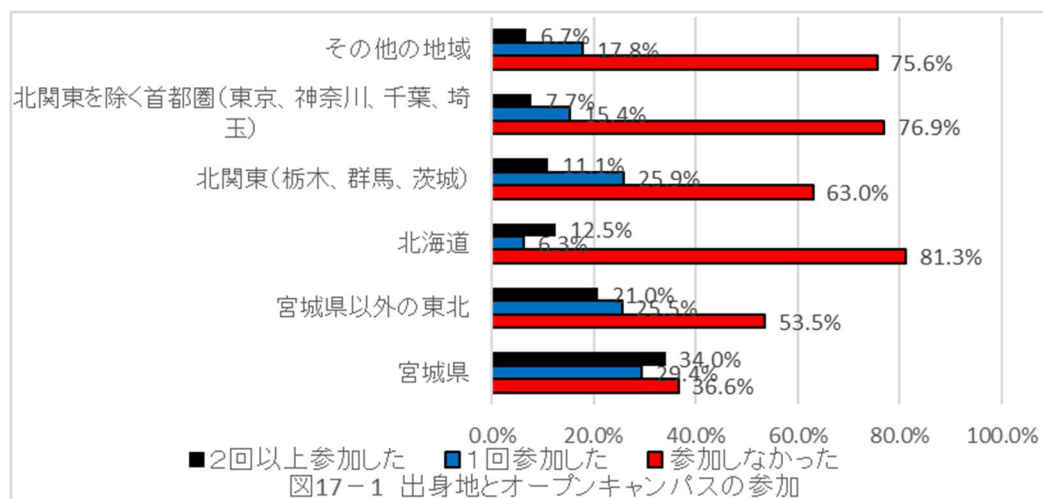


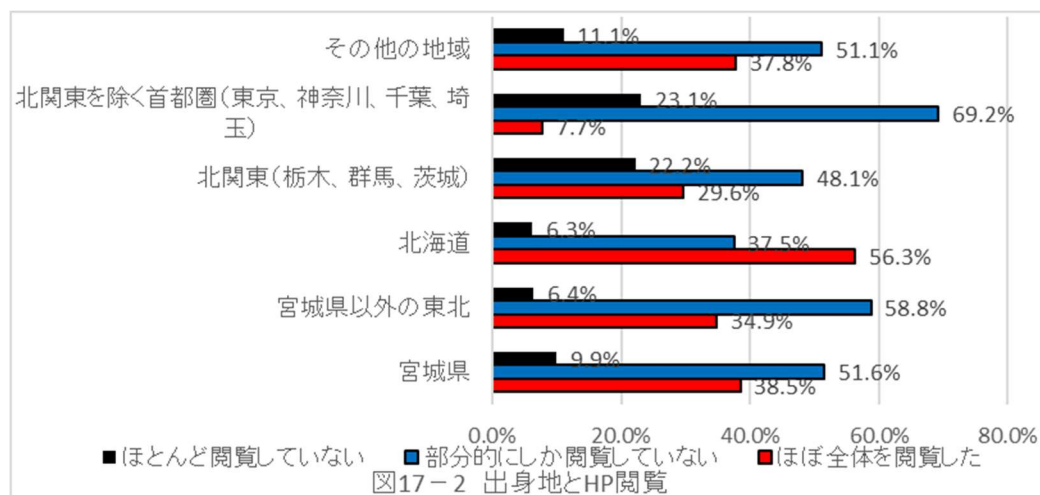


3) 出身地との関連

出身地とオープンキャンパスの参加、本学 HP 閲覧の2項目について χ^2 検定を用いて検討したところ、統計的に有意な連関が示された。結果を図 17-1 と図 17-2 にまとめた。

オープンキャンパスの参加との関連では、参加回数は「宮城県>宮城以外の東北、北関東>北海道、首都圏、その他」の順となることが示された(図 17-1)。HP 閲覧との関連では、北海道の者が全体を閲覧した者が多く、北関東・首都圏の者に「閲覧していない」者が多いことが示された(図 17-2)。併せて考えると、北海道出身者は、オープンキャンパスの参加が難しい代わりに HP から情報を得ようとしている可能性が示された。





VI. 付加的集計：出身地と志望順位の組み合わせ別のオープンキャンパス参加度、HP 閲覧度、大学満足

出身地と本学志望順位を組み合わせ、オープンキャンパス参加度、HP 閲覧度、大学満足度との関連を検討することを試みたが、組み合わせによっては該当する回答者数が少ない(もしくは0人)の場合もあり、統計的手法にて関連を検討することはできなかった。集計結果のみ、図 18-1 から図 18-3 に示す。

まず HP 閲覧(数値が高いほど閲覧していることを示す)では、北海道と首都圏では「大学にこだわらない」者のほうが HP をよく見ており、それら以外の地域では志望順位が高いほど HP をよく見ている傾向が伺えた(図 18-1)。次にオープンキャンパスの参加(数値が高いほど参加しており、0 は参加しなかったことを示す)では宮城県と他の地域に違いがあることが伺え、宮城県の者は志望順位が高いほど参加しているが、他の地域では志望順位が低いあるいはこだわらない者が参加している傾向があることが伺えた(図 18-2)。最後に、大学満足(数値が高いほど満足していることを示す)においては、志望順位が上位だと満足度が高いという関係を示す地域が多い中で、宮城県を除く東北出身者ではその志望順位でも満足度に違いがない傾向が伺えた(図 18-3)。

